
曲目解説

● J. J. ワルター (Johann Jakob Walther 1650-1717)

17世紀後半のドイツ語圏を代表するヴァイオリン奏者。

- ヴァイオリンと通奏低音のための「ケリュスの園」よりソナタ第1番ニ短調
ケリュスの園は28曲のヴァイオリンと通奏低音のための作品を集めた作品集。
“ケリュス”は古代ギリシャのべつ甲製堅琴を忠実に復元した楽器の名前。

● J. H. シュメルツァー (Johann Heinrich Schmelzer, 1623年 - 1680年)

当時のオーストリアの器楽曲作曲家の先頭を進む第一人者。

ドイツ語圏の作曲家としては初めてのヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ集を出版しています。当時幅をきかせていたのはイタリア人。

- ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ 第4番ニ長調

● H. I. ビーバー (Heinrich Ignaz Biber 1644-1704)

Biberはドイツ語でも動物の“ビーバー”を指す名詞です。

バッハより40歳ほど年上の作曲家ですが、当時としては普通でない響きをいろいろと試みています。

複調：複数の奏者が同時に違う調性の旋律を演奏する

トーンクラスター：ある範囲の音をすべて同時に鳴らす技法

ビーバーのある曲の最後は右の和音で終わっています。

なっている音は D, E, F, G, A の5つ。



- 「秘蹟のソナタ (ロザリオのソナタ)」より 第1番ニ短調「受胎告知」
第10番ト短調「磔 (はりつけ)」

副題：キリストの秘蹟に基づく15のソナタと、パッサカリア
聖母マリアの生涯からの15の秘蹟を標題に作曲されています。

通常の調弦では弾けないパッセージや重音奏法を可能にする調弦法
《スコルダトゥーラ》を用いて作曲されています。

● J. S. バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750)

○ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ

ホ短調 BWV - 1023

1. 速度表記無し 4/4拍子
2. Adagio ma non tanto 3/4拍子
3. Allemande 2/2拍子
4. Gigue 12/8拍子

演奏時間 約11分

○ヴァイオリンとオブリガートチェンバロのためのソナタ

第4番ハ短調 BWV-1017

1. Largo 6/8拍子 シチリアーノ
2. Allegro 4/4拍子
3. Adagio 3/4拍子
4. Allegro 2/4拍子

演奏時間 約16分

第6番ト短調 BWV-1019

1. Allegro 4/4拍子
2. Largo 3/4拍子
3. Allegro 4/4拍子 ヴァイオリンは休みでチェンバロのみ演奏
4. Adagio 4/4拍子
5. Allegro 6/8拍子

演奏時間 約17分

【通奏低音のためのソナタとオブリガートチェンバロのためのソナタの違い】

バッハまでのヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ【休憩前の全ての曲】では

ヴァイオリン 旋律を担当

チェンバロ 左手 通奏低音

右手 楽譜は書いてなく、奏者が自由に和音をつける

という演奏形態でした。チェロなどが通奏低音を補助することもあります。

通奏低音の例： 今日の演奏曲目 バッハのBWV 1023の2曲目の冒頭。

上段がヴァイオリン、下段がチェンバロの左手の楽譜です。

チェンバロ奏者は左手で上記の低音部を弾き、右手は書かれている数字（和音の配置を示しています）と旋律を参考にしながら自由に和音などを弾きました。

低音の楽譜と数字とから、右手の楽譜を即興で演奏する技術を

リアライゼーション (realization)

といい、当時の音楽家には必須の技術でした。

一方、オブリガートは英語の“obligate 義務的な”と同じ意味のイタリア語“obbligato”です。したがって、“オブリガートチェンバロ”の右手用にはしっかり楽譜が書かれていて奏者は必ず（obbligato）それを演奏しなければいけないわけです。


オブリガート楽譜の登場は
チェンバロ奏者にとっては

自分の自由な発想のじゃまになる、即興の腕を見せつける余地をなくすと反発もあったでしょうが、バッハにとっては

チェンバロ奏者の勝手な解釈を許さない、自分の意思を通したいという気持ちの表れだったのでしょう。

下手なチェンバロ奏者の下手な演奏に我慢できなくなったという状況もあったかもしれません。

第4番第1曲 *Allergro* の冒頭部分です。ヴァイオリン、チェンバロの右手、左手の3つの声部がしっかり書かれています。



古典派以降では、特に“オブリガート”と断らなくてもこの書き方が一般的になりました。